

コチャバネセセリ

有明森林で稚樹見舞いに歩いていて、足元から小さな蝶が飛び立ち先の草むらに止まりました。何者か?とデジカメを構えて抜き足差し足で近づき初物のセセリチョウと認識してゲットした画像で、2017年8月2日12時22分と記録されました。

図鑑「札幌の昆虫」での照合の結果、コチャバネセセリと判定しました。よく似ているオオチャバネセセリとイチモンジセセリがいますが、はるかに小さいのです。茶翅と漢字表記されますが、茶でも薄黒色で美しいとは思えません。蝶にしては凄く地味なものでした。図鑑の説明に「山地で普通」とあります。珍種ではないということです。これまで



気づかなかったのは、小さいのと、地味で見えにくかったからだと思います。出現は6~8月。大きさは26~31mm。食草はクマイザサ、チシマザサで有明森林ではチシマザサに育てられたのでしょう。出会ったのは春型のように、夏型は命名どおりの茶翅(左)なのです。分布は北海道(大き目の離島を含む)、本州、四国、九州(南西離島を除く)、およびサハリンとのこと。



幼虫の姿形はセセリチョウ仲間はよく似ていますが、食草もオオチャバネセセリとも共通の笹類ですが、コチャバネは幼虫生態に特徴がありまして、食草の笹の葉を筒状にしましてその中に隠れます。蛹化に際して地上にその筒のまま落下し、ミノムシのように筒を背負って歩き、その中で蛹化してしまうとのこと。越冬は蛹化前の終齢幼虫のままです。頑張り、春を迎えてから蛹化するとのこと。

有明森林ではこれまでに密生して樹木を寄せ付けない笹地の笹を眼の敵にして、かなりの面積を刈払いまして、針葉樹と広葉樹の稚樹を植えて、針広混交林を目指して育成しているのですが、この蝶にしてはその分の棲息環境が失われたわけで、個人的には複雑な心境ではありますが、チシマザサはまだまだこの森の大部分に生えておりますので、この蝶を絶滅させることにはならないと、自己弁解している次第でありました。元々の林相を復元しようと努力をしているのですが、あちら立てれば、こちらが立たずで、全てによろしいことにはならないのが、自然の摂理なのであります。

